

弔辞

菊田！

あなたは、逝ってしまいました。

27歳という若さで、

あなたの弔辞を、齢（よわい）二倍になる私が今ここで読むことになろうとは・・・

なんという哀しく、皮肉に満ちたことでしょうか。

あなたは足掛け5年以上にわたる、長い闘病の末に、逝きました。

二度の手術、抗がん剤療法、放射線治療が苦痛でなかったわけではない、にもかかわらず最後まで、弱音を吐くことも、愚痴をいうこともなく、にです。

私がああなたの病気のことを知ったのは、一年ほど前のことでした。

「先生の研究室で勉強をさせてもらえませんか」と言って君が研究室に来たのが一年前でした。

国家試験に落ちたので、というのです。

もちろん、そんなことは問題ありません。国家試験に落ちることも、勉強をすることも、です。

「どうぞ、いつでも」と私は答えました。

あなたの照れたような笑顔を覚えています。

しかしその時のあなたは、すでに、あなたの命を奪うことになったその病魔によって、大きく苦しめられていたのです。そしてそのことを私はしばらくの間知らずにいたのです。

その後のあなたは、国家試験の勉強に邁進していました。あなたの憧れの脳外科の先生たちは、あなたを医局員の一員であるかのように迎え、あなたは毎日の回診を経験することができたと聞いています。そんなあなたの、笑顔を昨日のここのように思い出します。

あなたの病状が悪化したのは、今月の初めでした。日々薄れていく、意識の中で、それでもあなたは最後まで私たちの呼びかけに、うなずいて、応えてくれていました。

それでも私は思います。

<菊田！

人生には順番というものがあるのですよ>

五年前の三月私は、震災直後の東北、岩手に医療支援に入りました。岩手の三月は寒く、降る雪が時折町の姿をかき消し、気温は氷点下を切っていました。そんななか、被災地は、未だ、遺体が川を埋め、道を塞いでいました。

幼い子供を亡くした母親。母を失った父子。生徒を亡くした教師。患者を助けることのできなかつた医師。友人たちの死。自責と慟哭が空を覆っていました。その思いは天にも届かんばかりでした。

(どうして人たちは、こんなにも哀しい目に遭わなくてはならないのか) と思ったことを覚えています。

その時、誰が言ったか。次のような言葉があることを知りました。

子供の死——それは、あなたの未来を失うこと。

友人の死——それは、あなたの一部を失うこと。

自らの過去や現在を失ったものたちは、それ以降の人生をどのように歩んでいけばよいのか。自らの未来を失うとはどういうことか。あなたとともにあったはずの過去が、ありうるはずであった未来が突然断ち切られるということの哀しみは、いかほどのものか。たとえいくら言葉を尽くしたとしても、愛するものを失った哀しみ消えることはないのです。

一歳になる娘と妻を失った男がある夜言いました。

「生き残ったということに理由はあるのか。神の偶然だとすれば、それはあまりに残酷な偶然だ。それが神の意思であるとすれば、そんな神を信じることはない」

男は拳で地面を殴った。殴った拳からは血が滴った。その血が雪を染めました。余震は大地の身震いのようだった。それでも満天の空には零れんばかりの星が溢れていた。朝が再び来るかどうかさえ確信が持てなかったが、これまでに見たどんな星空よりきれいだった。それは「生と死」の対立の中で見た壮絶な美しさでした。

そんななかで考えたことがありました。

それは「残されたものの責務」ということです。生き残ったものには、もしかすると、亡くなったものが、生きていれば為したであろうことを、為すべき責務があるのではないかとのことでした。

「あいつが生きていれば、行ったであろうこと」

「あいつが生きていれば、笑ったであろうこと」

「あいつが生きていれば、喜んだであろうこと、感動したであろうこと」

そんなことごとを、私たち残されたものには、なすべき責任があるのです。

菊田！

あなたが最後に願っていたこととは何でしょう。

良き医師として、多くの患者の命を救うことではなかったでしょうか。

あなたの愛した友人、先輩、後輩、そしてボート部の部員は、今、その決意を新たにしたいと思います。

最後になりましたが、

記憶は死に対する私たち人間の、部分的な勝利です。だからこそ、時々釣り上げ眺める必要があります。それは、再び、そっと流すためにです。

あなたの生きていた証は忘れません。

ある詩人の言葉です。

戸棚や食器棚にしまっておくもんじゃないよ、記憶は、さ
ひんやりとした流れの中に立って、
静かに糸を投げ入れよう
そして釣り上げてはまた、流れの中へ放せばいい――

時々、君のことを思い出します。

安らかにお眠りください。

長崎大学熱帯医学研究所

医学部漕艇部部長

山本太郎